代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151―0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷１―30―７
ＴＥＬ03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

震災復興・なくせ原発３・11行動in東京

300万もらって家が建つかあ 何だかおかしいんでねえか

震災から1年になる3月11日、井の頭公園西園で「震災復興・なくせ原発3・11行動in東京」の集会が行なわれました。

集会には全体で8千人が訪れ、勤医会を中心としたグループの事業所と共同組織からは107人が参加しました。

「家が流されて300万もらって、家が建つかぁ？」「船や、漁具が流されても、家が残れば1銭もでない。何だかおかしいんでねぇか？」岩手県田老町漁協の前川昌人さんの力強く訴える声が、会場に響き渡り共感を呼びました。

復興が見えるようにして

全労連の大黒作治議長による主催者挨拶の後、岩手県の前川さんは「消費税を上げる前に、年金を切り下げる前に、やっことあるんでねぇか！」「復興が見えるようにしてけんねえか」と被災地の窮状を伝えると、会場のあちこちから「そーだ」の声が上がりました。

被災地からの発言を８千人が聞きました

仮設住宅で12人孤独死

宮城県塩釜市にある坂総合病院の矢崎とも子医師は、訴えました。「宮城県では2万1500の仮設住宅に5万3100人の避難者がいます。その中から12人の孤独死の人が出てしまいました」

そして、「ボランティア活動には限界があります」として、行政が適切な援助ができるよう早急に行動するよう求めました。

原発事故が捜索阻んだ

福島県労連の斉藤富春議長は「原発事故の避難指示にともない、震災翌日から約1カ月間、行方不明者の捜索活動が行なわれませんでした」「助かった人の証言では、震災翌日までうめき声が多数聞こえていた。遺体の中には、損壊した家の屋根にのっていたままの人もいた」と原発事故さえ無ければ救えた命が多数あったことについて、無念であると述べました。

新たな放射能の安全神話

東京都教職員組合青年部の板橋さんは「放射線副読本を全国の小学校から高校に配布しようとしています」と報告しました。

その内容について、「原発事故に起因する放射性物質の問題にはほとんどふれていません」「今後発病すると言われている甲状腺ガン、白血病という言葉はいっさい出てきません」と説明、原発事故の反省がなされていないことを言及しました。

そして、「新たな放射能の安全神話を子供達に教えさせようとしている放射線副読本は、断じて許されない物です」と主張。また、この副読本が、電力会社経営陣が理事を務める日本原子力文化財団が作成していることを指摘しました。

○●○

世論調査（朝日新聞3月10～11日実施）では、原発再開について「反対」が57％で、「賛成」27％の倍以上に達しています。

震災発生時刻の14時46分、いっせいに黙とうしました

原発の再稼働を求める勢力が暗躍しているにもかかわらず、日本のほとんどの原発が再稼働できずにいるのは、市民が日夜放射線について学習・測定し、声をあげ続けているからなのです。

将来をになう子どもたちのためにも、「脱原発」の行動を継続・発展させ、放射線に恐怖しないで安心できる未来をつくっていくべきです。

そして、岩手・宮城・福島を中心に被災した地域の人たちが、復興を実感できるようになるためには、行政による早急かつ柔軟な支援が責務です。

一方、それを実行させるために国民は、署名やデモなどを通じて、今後も継続的に行政に働きかけていく必要があります。

また、被災地や被災者を「忘れない」で、わが身に置き換えて考えることが、運動の原動力となっていくのではないでしょうか。

震災復興と脱原発を求め、吉祥寺駅までデモをしました

震災復興・なくせ原発 3・11行動に参加して

放射線科　吉川彰人

2011年3月11日あれから1年、放射線診療従事者の私からしたら、まだ1年しか経っていません。M9・0の巨大地震。そしてレベル7（国際原子力事象評価尺度）の原発事故。

様々な思いを抱え、8000人が吉祥寺に集りました。その中には子ども連れの参加者の方も多くいました。

被災地の現状、生活保障、将来のある子ども達を見ると、これからの未来のためにも、「3・11」とは国民全体が真剣に向き合わなくてはなりません。

政府が公表している放射性物質セシウム137の半減期は、約30年。その間見えない放射能におびえながらも生活していかなくてはならないのです。

またいつ起きてもおかしくない大地震。もう二度と同じことを繰り返さないためにも、一刻も早い原発停止、そして廃炉・解体を願いたいです。

手術台

昨年12月の年が押し迫った28日未明、普天間基地の辺野古移設のための環境影響評価書が、県民の声を無視して沖縄県庁に届けられた。辺野古移設反対のため押しかけた県民が寝静まっている時間での暴挙。まさに県民を敵とみなした「だまし討ち」に他ならない。県民無視のこの行為はいかなる理由を付けようとも「正当化」することはできない▼15年前に、オジイやオバがはじめた辺野古での座り込みは今も続く。政府が「金」で県民の心を買おうとしたりしても、普天間基地の移設が進まないのは、こうした「行動」に支えられた世論の力によるものだ▼今年の春にも全国54基の原発は停止する。一方で「再稼働」という言葉がチラつくが、再稼働への動きが進まない。市民が声をあげ世論を動かし「再稼働」を阻止しているのだ。「行動」を起こさなければ、「悪意」のこもった財界の力に政治が取り込まれてしまう。世論を高めることこそが、我々自身と子や孫を守ることができると確信している。（た）